



ベトナム災害対策事業について

マングローブ植林のニーズの高まり

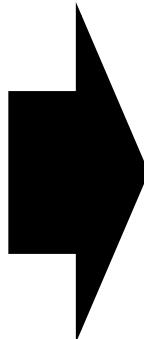
マングローブ林減少の理由



戦争による空爆や
枯葉剤による環境汚染



エビなどの養殖地
造成による伐採など



マングローブ林減少の悪影響



高潮などによる田畠の塩害



台風による被害が拡大

※ベトナム赤十字社報告書による

マングローブ植林の始まり



ベトナム赤十字社



このような住民のニーズの高まりを受けて、1994年にベトナム赤十字社が災害対策の一環として、デンマーク赤十字社の支援を得てマングローブ植林活動が開始され、1994年から1996年までの3年間でタイ・ビン省において約2,000ヘクタールのマングローブが植林されました。

日本赤十字社の支援

日本赤十字社は、1997年から国際赤十字を通して、マングローブ植林を含めたベトナム災害対策事業を支援しています。現在では、ベトナム赤十字社の代表的な事業に成長しました。また、日本赤十字社との交流もさかんに行われています。

大塚副社長(左)をベトナム赤十字社のタン社長(右)が訪問



防災を目的として救急法の訓練も実施

青少年赤十字交流事業の一環で植林を体験

住民によるマングローブ林の維持管理

地域住民の手によってマングローブの植林、育成、保全が行われています。



マングローブを植林する住民



成木になったマングローブ林

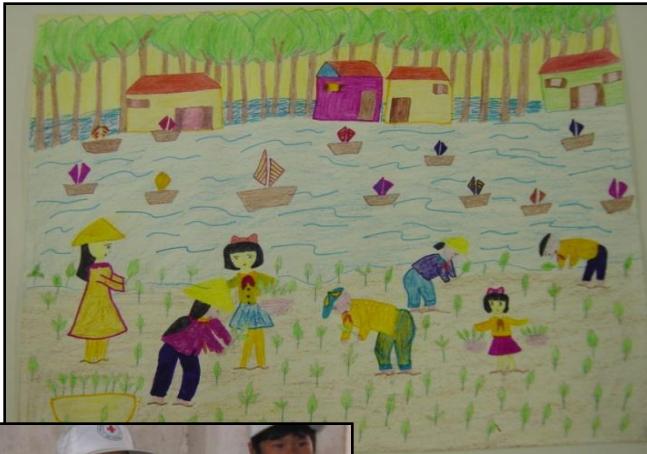


やぐらからマングローブ林を監視

マングローブに付着した
フジツボをとる子どもたち

住民への防災知識の普及

また、ベトナム赤十字社は地域住民や教師、小学生に対して災害対策にかかる研修を開催し、マングローブ植林の意義や防災に関する知識の普及、啓発を促進しています。



小学生が描いたマングローブ植林の様子



マングローブの授業を受ける小学生



災害対策に関する研修を実施

これまでの実績

日本赤十字社は1997年から2009年までに延べ10,026ヘクタール(実面積5,861ヘクタール)にマングローブを植林してきました。また防風林としてモクマオウや竹も植林しています。



植林された竹の手入れをする住民



海の手前に広がるマングローブ



4mに成長したマングローブ

副次的な効果も

本事業によって、マングローブ林周辺の生態系が豊かになり、エビやカニなどの魚介類を捕獲して生計を立てている住民の収入が増えるなど、防災効果のみならず、副次的な効果も出ています。

マングローブを植林することで、堤防の維持費が年間730万米ドルも削減されました



植林した竹の根元に生える竹の子も地域住民の貴重な収入源になっています



1日1ドルで生活している住民はマングローブ周辺に生息するカニや魚を捕獲して日に20セントを得ています